

NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）

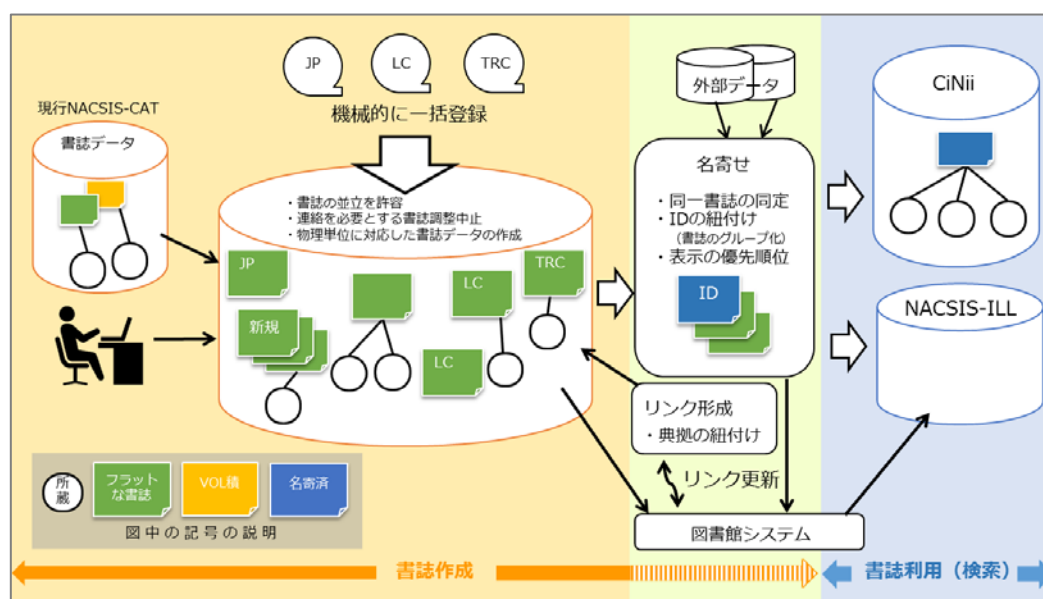
本方針は、2016 年 7 月公開の「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針）」をもとに、システム開発に必要な機能項目、運用方法及び移行計画を示すものである。NACSIS-ILL については、NACSIS-CAT の変更にとまなう変更部分までを今回の検討対象としており、雑誌については、基本方針でも述べたように現在の設計を踏襲する。

本方針では、「軽量化⁷⁾」（＝人的作業の軽量化）、「合理化¹⁰⁾」（＝機械処理への移行、外部との連携強化）の実現にむけて「既存情報源⁵⁾の活用」及び「機械処理性⁴⁾の向上と相互運用²¹⁾」を徹底的に進めるべく、書誌作成システム¹⁸⁾と書誌利用システム¹⁹⁾の分離を基本としている。従来は、書誌作成と書誌利用では同じシステムを用い、作成した書誌がそのままの形で利用に供与される前提であった。今後は機械処理を前提とし、書誌作成システムはプラットフォームでシンプルな構造を採用し、書誌利用システムは名寄せ³⁰⁾技術等を用いて、他のシステムとの相互運用を積極的に進め、リッチな書誌の提供を図る。

CATP については、データベースフィールド定義²⁶⁾の変更は留め、メソッド等³³⁾の通信に関わるルールは継続し、各機関の図書館システムへの影響を最低限に留める。

本方針では、従来の「ファイル」を「データセット²⁵⁾」、「レコード」を「データ²⁴⁾」と呼ぶ。煩雑さを避けるため他の用語についても本文中での説明は最小限にし、本文初出時に文末に付した用語集の該当番号を記載した。2020 年までのロードマップと併せ、適宜参照願いたい。

以下、基本方針にも示した概念図の改訂版をあらためて提示し（図 1）、具体的な実施方針の詳細について順次記す。



A. 書誌作成機能

A-1. 書誌作成機能の合理化

書誌データ作成単位を出版物理単位に変更し、書誌構造を見直すための新基準²⁰を整備する。出版物理単位の外部機関作成書誌データを流用手続きなく直接 NACSIS-CAT 書誌データとして活用することで、書誌作成の作業効率が向上すること、所蔵自動登録¹⁵の効率（精度）が向上すること、従来記録されていなかった出版物理単位ごとの情報の提供が可能となること（リッチな書誌の提供）、利用者の判断材料が充実することなどが期待される。また、国内外の外部機関作成書誌データやデータベースとの相互運用性も強化され、表紙画像・あらすじ・目次表示や外部リンクなど、外部連携サービスを取り入れやすくなり、サービス拡張性が向上する。さらに、著者名典拠データについても外部機関作成著者名典拠データセット及び VIAF¹ (The Virtual International Authority File) を活用することで、現行の NACSIS-CAT 著者名典拠データセット²³の情報のリッチ化と、書誌データと著者名典拠データとの自動リンク¹⁶による作成機能の合理化を図る。

1 出版物理単位での書誌作成

1.1 新基準適用後に作成する書誌データの取扱

1.1.1 VOL グループの繰返しの禁止

書誌作成単位は出版物理単位を原則とし、VOL グループの繰返しによって複数の出版物理単位を表現することを禁止する。

1.1.2 VOL グループの繰返しの例外的許可

和漢古書等の一部の資料については、例外的に VOL グループの繰返しを許可する。対象資料等の詳細は別に定める。

1.2 現行基準⁸で作成済みの書誌データの取扱

1.2.1 書誌作成単位の凍結

遡及的な出版物理単位への分割は実施しない。

1.2.2 VOL グループの追加の禁止

新基準適用後は、既存書誌データ⁶に対する VOL グループの追加を禁止し、出版物理単位で新たな書誌データを作成する。

1.2.3 VOL グループの追加の例外的許可

和漢古書等の一部の資料については、例外的に VOL グループの追加を許可する。対象資料等の詳細は別に定める。

1.2.4 所蔵登録

新基準適用後も既存書誌データへの所蔵登録を許可する。

2 書誌構造リンク¹⁷の見直し

2.1 書誌構造リンク形成作業

2.1.1 書誌構造リンク形成作業の任意化

書誌データには、従来の親書誌データに相当するタイトル及び責任表示，親書誌データに対する番号等，中位の書誌単位のタイトル及び責任表示，構造の種類等を記述することとし，これに対応する親書誌データの新規作成及びリンク形成作業は現行の必須レベルから任意レベルに変更する。中位の書誌単位が複数ある場合は，上位の書誌単位から順に記述する。

2.1.2 書誌構造リンク形成機能の維持

現行の検索環境を保証するため，手動によるリンク形成機能を提供する。

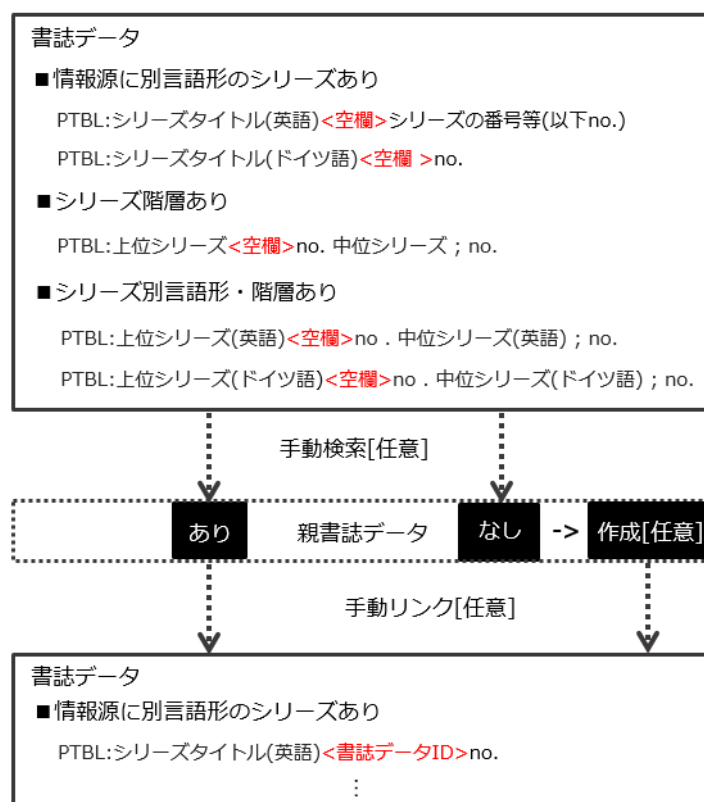


図2 書誌構造リンク形成

3 外部機関作成データ³の活用

3.1 書誌データ

3.1.1 対象

当面は現行基準で利用している外部機関作成データを対象とする。

[目録システム利用マニュアル]-[3.1 参照ファイルの種類]

http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/3_1.html

3.1.2 新基準適用後の取扱

3.1.2.1 システム登録¹⁴による利用

新基準に合致する書誌データは、あらかじめシステム登録書誌データとして図書書誌データセット²⁹に登録する。

3.1.2.2 コピー¹¹元データとしての例外的利用

一部の新基準に合致しない書誌データ及び Z39.50 接続²によって現在取得している書誌データは、参加館登録書誌データ¹²の作成の際にコピー元データとして利用する。

3.1.3 現在「参照ファイル」として登録されているデータの取扱

3.1.3.1 遡及的なシステム登録の実施

高頻度での利用が予想される一定期間のデータのみ、システム登録書誌データとして図書書誌データセットに直接登録する。

3.1.3.2 【3.1.3.1】以外の書誌データの取扱

【3.1.2.2】同様、参照 MARC¹³として提供する。

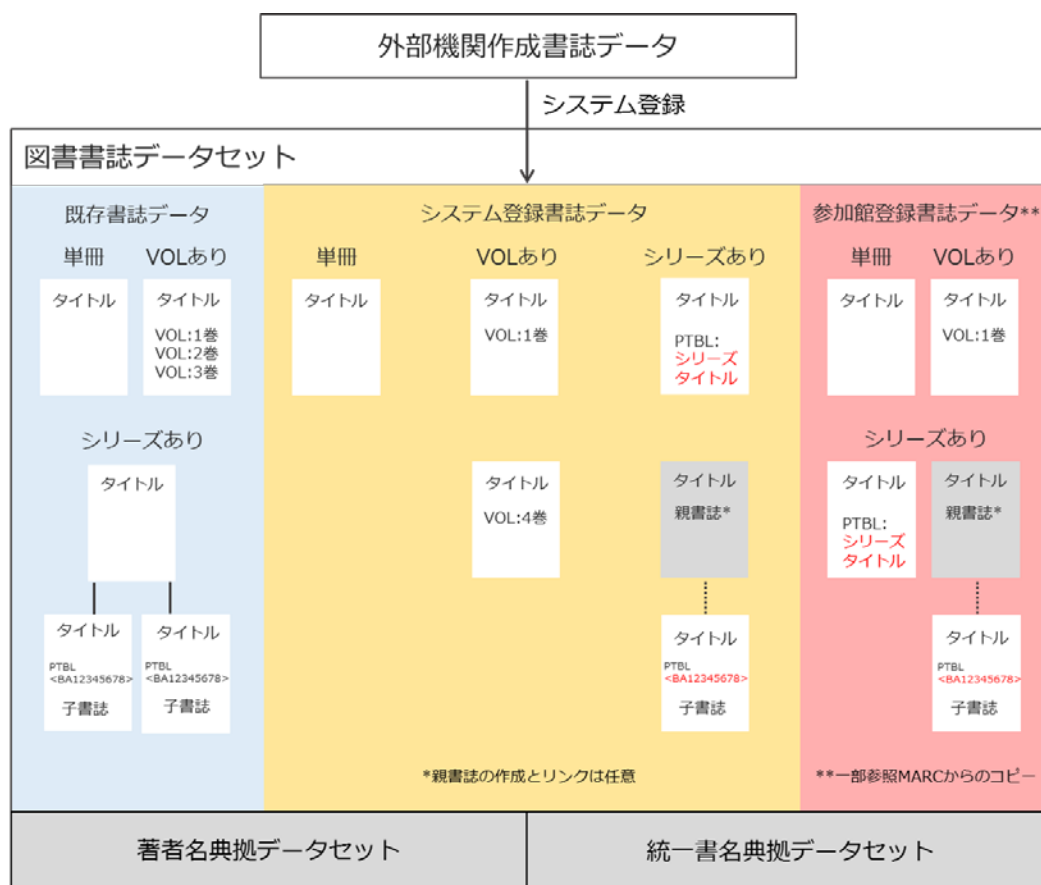


図 3 新基準適用後の NACSIS-CAT

3.2 著者名典拠データ

3.2.1 新基準適用後の取扱

3.2.1.1 システム登録による利用

著者名典拠データセットに存在せず、活用が期待できる外部機関作成著者名典拠データの一部は、あらかじめ著者名典拠データセットに登録する。

3.2.1.2 コピー元データとしての利用

【3.2.1.1】以外は、現行分参照 MARC⁹と同様に、参照 MARC として保存し、コピーして活用する。

3.2.1.3 参照 MARC 及び著者名典拠データセットのメンテナンス

参照 MARC を活用し、定期的に著者名典拠データの情報の追加あるいは著者名典拠データセットへの新規登録を行う。

3.3 統一書名典拠データ²⁷

現行基準を維持するが、外部機関作成書誌データをシステム登録する際に、基準に合致しないもの（統一書名以外の別タイトル等）が統一書名典拠のフィールド³¹に入らないようにデータ変換ルールを見直す。データ変換で対応出来ない場合は参照 MARC として利用する。

4 自動登録・自動リンクの強化

4.1 所蔵の自動登録

4.1.1 対象範囲の拡大

外部機関作成書誌データのシステム登録によって、図書書誌データセット内の自動所蔵登録対象となる書誌数の増加を図る。

4.1.2 精度の向上

新基準適用後の書誌データは、複数の VOL グループの繰返しによる表現を禁止することにより、自動登録時の VOL 記述の不一致によるエラー減少を図り、ISBN 等の識別番号による自動登録精度の向上を図る。

4.2 著者名典拠データと書誌データの自動リンク

4.2.1 システム登録書誌データ

4.2.1.1 外部機関作成著者名典拠 ID を含む書誌データ

外部機関作成著者名典拠 ID で著者名典拠データセットとマッチングをおこない、対応する ID を持つ著者名典拠データセットのデータと当該書誌データの自動リンクを行う。マッチングには VIAF 等の外部著者名典拠データを活用した仕組みを導入する。

4.2.1.2 外部機関作成著者名典拠 ID を含まない書誌データ

自動リンクは実施しないが、著者名典拠データセットのデータとの手動リンクを可能とする。

4.2.2 参加館登録書誌データ

4.2.2.1 著者名典拠データセットにリンク対象となるデータが存在する場合
著者名典拠データセットのデータとの手動リンクを従来どおり可能とする。

4.2.2.2 著者名典拠データセットにリンク対象となるデータが存在しない場合
参照 MARC データをコピーしての登録、あるいは著者名典拠データを新規登録することにより、従来どおりの手動リンクを可能とする。

4.2.3 既存書誌データ

遡及的な自動リンクは実施しないが、著者名典拠データセットのデータと既存書誌データの手動リンクは従来どおり可能とする。

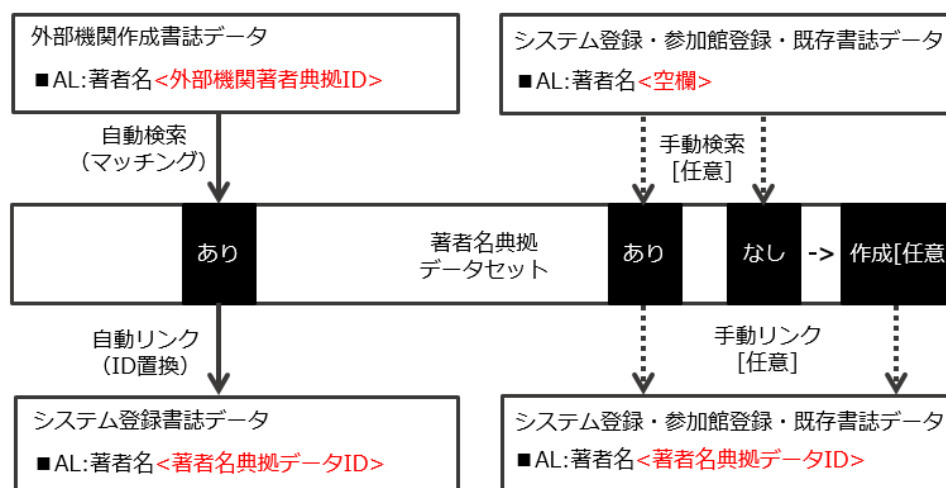


図4 著者名典拠データリンク形成

A-2. 書誌管理作業の軽量化

新基準適用後は、既存書誌との差異に対する判断は「発見館修正可」または「修正不可（＝別書誌作成）」に分類し、従来の作成館との協議（レコード調整）は廃止する。その実現のために、同一資料に対して複数の存在を許容するデータを並立書誌データ³²、同一資料の同定に必要な項目が全く同一で統合²⁸対象となるデータを重複書誌データ²²と再定義する。その上で、書誌の修正が可能となる範囲、同一資料に対する並立書誌データの存在について許容される範囲、重複書誌データとして統合の対象となる範囲を定める。作成館との協議を廃止することによって、書誌管理に関する参加館の業務の軽減を図る。

5 レコード調整の廃止

5.1 書誌データの修正

現行基準における「修正作業の区分」（コーディングマニュアル 第21章 図書書誌レコード修正 21.1.b 修正事項一覧）を参考に、修正する項目を「発見館修正可」と「修正不可（＝別書誌作成）」に分け、それぞれ以下の図のとおりに対応する。項目の詳細は別に定める。

修正箇所 \ データ種別	既存書誌データ	システム登録書誌データ	参加館登録書誌データ
書誌構造(VOL)の変更	変更しない		
発見館修正可の項目	修正できる	修正できる	修正できる
上記以外の項目	別書誌作成	別書誌作成	別書誌作成

システム登録書誌データのうち、参加館によって修正された書誌データの扱い

・MARCデータが更新された場合

①「修正」更新データ：上書きしない

②「削除」更新データ：所蔵がない場合は該当書誌を削除する
所蔵がある場合は元のMARCのIDのみ削除する

図5 修正作業の区分

5.2 書誌データの統合

5.2.1 並立書誌データ

新基準適用後、以下の項目に該当する場合は、並立書誌データとして存在を許容し、統合の対象とはみなさない。

5.2.1.1 既存書誌データとシステム登録書誌データ

5.2.1.2 由来³⁴が異なる複数のシステム登録書誌データ

例：JPMARC と TRCMARC

5.2.1.3 発見館修正可の項目以外を修正する必要が生じたために、新たに別書誌を作成した書誌データ同士

5.2.1.4 現行基準において重複とみなさない書誌データ

例：稀観本・複製資料等

5.2.2 重複書誌データ

新基準適用後、以下の項目に該当する場合は重複書誌データとして、統合の対象とする。

5.2.2.1 既存書誌データと参加館登録書誌データ

既存書誌データに統合する。

5.2.2.2 システム登録書誌データと参加館登録書誌データ

システム登録書誌データに統合する。

5.2.2.3 参加館登録書誌データ同士

先に作成された参加館登録書誌データに統合する。

並立/重複の判断	既存書誌データ	システム登録書誌データ	参加館登録書誌データ
並立	A	A	
並立		JP A TRC A	
重複*	A		A
重複*		A	A
重複*			A A

*ただし【5.1】により先に存在する書誌データの修正が不可であるために、新たに別書誌データを作成した場合は、重複としない。

図 6 並立/重複の対象

データ種別	既存書誌データ	システム登録書誌データ	参加館登録書誌データ
既存書誌データ	(統合する)	統合しない	既存書誌データへ統合する
システム登録書誌データ		統合しない	システム登録書誌データへ統合する
参加館登録書誌データ			先に登録された参加館書誌データへ統合する

稀覯本（和漢古書等の記述対象資料毎に書誌データを作成するもの等）は統合しない。

図 7 重複書誌データの統合

5.2.3 統合方法

統合対象書誌データの抽出、統合方法、所蔵館への連絡方法等については、別に定める。

A-3. 運用ルール

外部機関作成書誌データを図書書誌データセットにシステム登録書誌データとして登録するため、図書書誌データセット内に所蔵がない書誌データや外部機関が作成時に準拠した目録規則による書誌データの存在を許容する。参加館は、システム登録書誌データに対し NACSIS-CAT が準用する目録規則に合わせるための修正を行わないこととする。また、外部機関作成書誌データとの相互運用性を担保するため、新規作成時に準用する目録規則を、「日本目録規則 1987 年版改訂版」(和資料)、「英米目録規則第 2 版(1988 年改訂, 1993 年修正)」(洋資料) から、RDA やそれに準拠した改訂版日本目録規則など国際標準に合わせたものに移行する。

出版物理単位での書誌作成、書誌構造リンクの見直し、外部機関作成データの活用、レコード調整の廃止などの変更に基づき、「目録情報の基準」やコーディングマニュアル等の見直しを行い、書誌データ等の入力のためのガイドラインを整備するとともに、これらの変更に対応した研修体制の整備について検討を行う。

B. 書誌利用機能

6 書誌利用機能に求められる機能

序文に述べたように、書誌作成システムと書誌利用システムの分離を基本としている。書誌作成システムでは、同一資料に対する複数の書誌データが存在する一方で所蔵がない書誌も存在するため、ILLなどでデータベースを活用する場合は、名寄せ技術等の機械処理を用いてデータの整理・組織化を行い、ユーザビリティを担保する必要がある。本節では NACSIS-ILL 及び CiNii Books について、必要な機能を記す。

6.1 NACSIS-ILL

6.1.1 書誌の名寄せ

6.1.1.1 名寄せ

書誌検索時に、並立書誌データは、名寄せ書誌データとして提供する。
名寄せの基準は別に定める。

6.1.1.2 名寄せの例外的回避

和漢古書等の一部の資料については、名寄せを回避する。

6.1.2 所蔵の名寄せ

6.1.2.1 名寄せ

名寄せ後の書誌データのそれぞれの所蔵情報も一括して提供する。

6.1.3 その他

6.1.3.1 巻号での検索

VOL フィールドに入っている巻号部分を検索や絞り込みの対象とする。

6.1.3.2 所蔵のない書誌の扱い

所蔵データを持たない書誌データについては、検索及び表示の対象としない。

6.2 CiNii Books での利用

6.2.1 名寄せ

書誌検索時に、並立書誌データは、名寄せ書誌データとして提供する。

6.2.2 名寄せ前 NCID での検索

名寄せ前の NCID によって検索した場合でも、名寄せ後の書誌情報を表示する。

C. 図書館システムへの対応

7 図書館システムへの対応

参加機関側の図書館システムとの運用連携のために、NACSIS-CAT で備えるべき要件及び図書館システムに推奨される機能について記述する。

7.1 NACSIS-CAT が備えるべき要件

7.1.1 通信プロトコル

各図書館システムとの通信プロトコルは、CATP を維持する。スキーマバージョンの追加は実施するが、既存のスキーマバージョンも維持する。

7.1.2 書誌作成業務

現行の図書館システムの書誌作成機能での対応を想定するが、書誌構造のフラット化に伴う書誌入力方針の変更は、入力ルールの変更により対応する。

7.1.3 書誌構造リンク

現行の図書館システムと同様の親書誌データへの手動リンクを維持する。ただし、親書誌データへのリンク付けは必須としない。

7.2 NACSIS-ILL

7.2.1 名寄せ書誌の利用

【6.1】で述べたように、ILL では名寄せ後の書誌及び所蔵を提供する。一方で、当面は現行の図書館システムの ILL クライアントでの対応を前提とするため、書誌作成システムとは別に、現行の ILL クライアントでの業務用に、名寄せ処理済み書誌のデータベースを用意する等の措置を講ずる。

7.2.2 接続サーバーの切替

【7.2.1】で述べた措置を取る場合には、書誌作成業務と ILL 業務で接続先サーバーの切替が必要となることが想定されるが、仕様については参加館、図書館システムベンダーと検討する。

7.3 CiNii Books

【6.2】で述べたように、CiNii Books では名寄せ後の書誌及び所蔵を提供するが、名寄せ前の NCID によるアクセスも保証する。これらについては、CiNii の Web サイトのみでなく、API でも同等の機能を提供する。

7.4 その他

7.4.1 情報の開示

技術情報及び開発のロードマップは迅速に開示する。

7.4.2 テスト環境の提供

2018 年度中にテストサーバーを構築し、各図書館システムベンダーとの連携テストを開始する。

7.4.3 図書館システムベンダーとの情報交換

実装にあたっては、各図書館システムベンダーとの情報交換を行い、図書館システムへの影響を最小限にとどめるよう、十分に仕様を検討する。

7.4.4 その他

本方針に含まれない事項については、随時、NII、参加館、図書館システムベンダーと意見交換をしながら進める。

◆今後に向けて

以上、2020年度に向けたNACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について述べてきたが、基本方針の末尾でも触れたとおり、当システムの在り方に関しては今後も絶え間なく検討を続け、内外の環境の変化に応じて、必要な変更が適切に行なわれることが望ましい。2020年を通過点と捉え、図書館業務の在り方も含めた議論の中から、より良い提案が生まれることを期待し、整備を続けていきたい。

以上

【別紙1】NACSIS-CAT/ILLの軽量化合理化について（用語集）

※用語の五十音順に掲載しています。 ※定義は「詳細案」内での語の使い方を示しています。

No.	用語	定義
1	VIAF	The Virtual International Authority Fileの略。 OCLCが維持管理する、複数の国立図書館と地域的、国際的図書館関係機関による共同プロジェクト。典拠ファイルをマッチングおよびリンクをし、ウェブ上で利用可能な情報を作成している。 (https://viaf.org/ 2016/12/7閲覧)
2	Z39.50接続	NACSIS-CAT上にデータが蓄積されている通常の参照ファイルと異なり、Z39.50プロトコルを利用した接続。参加館が検索する都度、外部機関が提供するサーバへ接続してデータを取得し、利用している。NACSIS-CAT固有の書誌IDが無く、検索のたびに書誌IDが変わる。
3	外部機関作成データ	NACSIS-CAT以外の機関が作成した書誌データ、著者名典拠データ、統一書名典拠データ。 詳細： http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/3_1.html
4	機械処理性	人的作業ではなく、最新の技術を用いて機械的に処理する作業の効率性。
5	既存情報源	出版社や外部書誌作成機関などNACSIS-CAT以外で作成されたデータ。
6	既存書誌データ	2019年度までに登録された図書書誌データ。
7	軽量化	図書館の書誌作成・管理作業や、利用者の書誌利用環境を最適化し、効率化すること。
8	現行基準	2020年度の新しいCATの導入前の基準。
9	現行分参照MARC	2019年度まで参照MARCとして提供されていた外部機関作成データ。
10	合理化	機械処理への移行、外部との連携強化など、現在の技術に適応したシステムの再設計のこと。
11	コピー	一般的な複製の意。現行NACSIS-CAT内での「COPY」の範囲に留まらない。
12	参加館登録書誌データ	2020年度以降に、新規登録やコピー（参照：用語集11）による登録により参加館が作成する書誌データ。
13	参照MARC	外部機関作成データ（参照：用語集3）のうち、取得方法がZ39.50のものや、VOLグループの繰り返しがあるデータなど新基準に合致しないデータ。参加館はデータをコピーして利用することができる。
14	システム登録	外部機関作成データ（参照：用語集3）のうち、取得方法がZ39.50のものや、VOLグループの繰り返しがあるデータなど新基準に合致しないデータを除いたものを、図書書誌データセットや著者名典拠データセットにあらかじめ機械的に登録すること。
15	自動登録	各図書館等の所蔵データを自動的に登録するシステムを用いて、参加館の所蔵レコードを一括登録・更新すること。
16	自動リンク	人的作業ではなく、ID等によって機械的にリンク形成作業を行うこと。
17	書誌構造リンク	シリーズ名などの書誌階層がある場合の、親書誌データと子書誌データのデータ間リンクのこと。
18	書誌作成システム	現行のNACSIS-CATなど、書誌を作成するために必要なシステム。また作成の仕組み。
19	書誌利用システム	現行のNACSIS-ILLやCiNii Booksなど、書誌作成システムで作成された書誌データを利用するシステム。また利用の仕組み。
20	新基準	2020年度の新しいCATの導入後の基準。
21	相互運用	外部機関作成書誌データをNACSIS-CATで活用すること。また、NACSIS-CATで作成したデータが外部機関で活用されること。
22	重複書誌データ	書誌の同定に必要な項目が全く同一の書誌データ。統合（参照：用語集28）対象となる。
23	著者名典拠データセット	現行の著者名典拠ファイル（NAME）。
24	データ	現行の「レコード」。例）図書書誌レコード→図書書誌データ
25	データセット	現行の「ファイル」。例）図書書誌ファイル→図書書誌データセット
26	データベースフィールド定義	データを入力する際のフィールド名やフィールド内でのデータの扱い方、入力方法、計算方法、保存方法、表示方法などのこと。
27	統一書名典拠データセット	現行の統一書名典拠ファイル（TITLE）。
28	統合	複数のデータを一つにすること。
29	図書書誌データセット	現行のNACSIS-CAT 図書書誌ファイル（BOOK）。新基準適用後は既存書誌データ（参照：用語集6）、システム登録書誌データ（参照：用語集14）、参加館登録書誌データ（参照：用語集12）が含まれる。
30	名寄せ	タイトルや出版社など、データの主たる項目を比較し、同一資料を表現していると判断されるものについて、グループとしてのまとまりを作るまたは統合（参照：用語集28）する機能。CiNii Articlesで実装・運用済。
31	フィールド	現行の「フィールド」。用語を変更しない。
32	並立書誌データ	同一資料に対する複数書誌データ。由来の相違のほか、現行基準において作成館に問い合わせを必要とする書誌事項の相違などにより存在が許容される。
33	メソッド等	CATP内で使用する「GETHANDLE」、「SEARCH」などのこと。
34	由来	外部機関作成書誌データの入手元。

